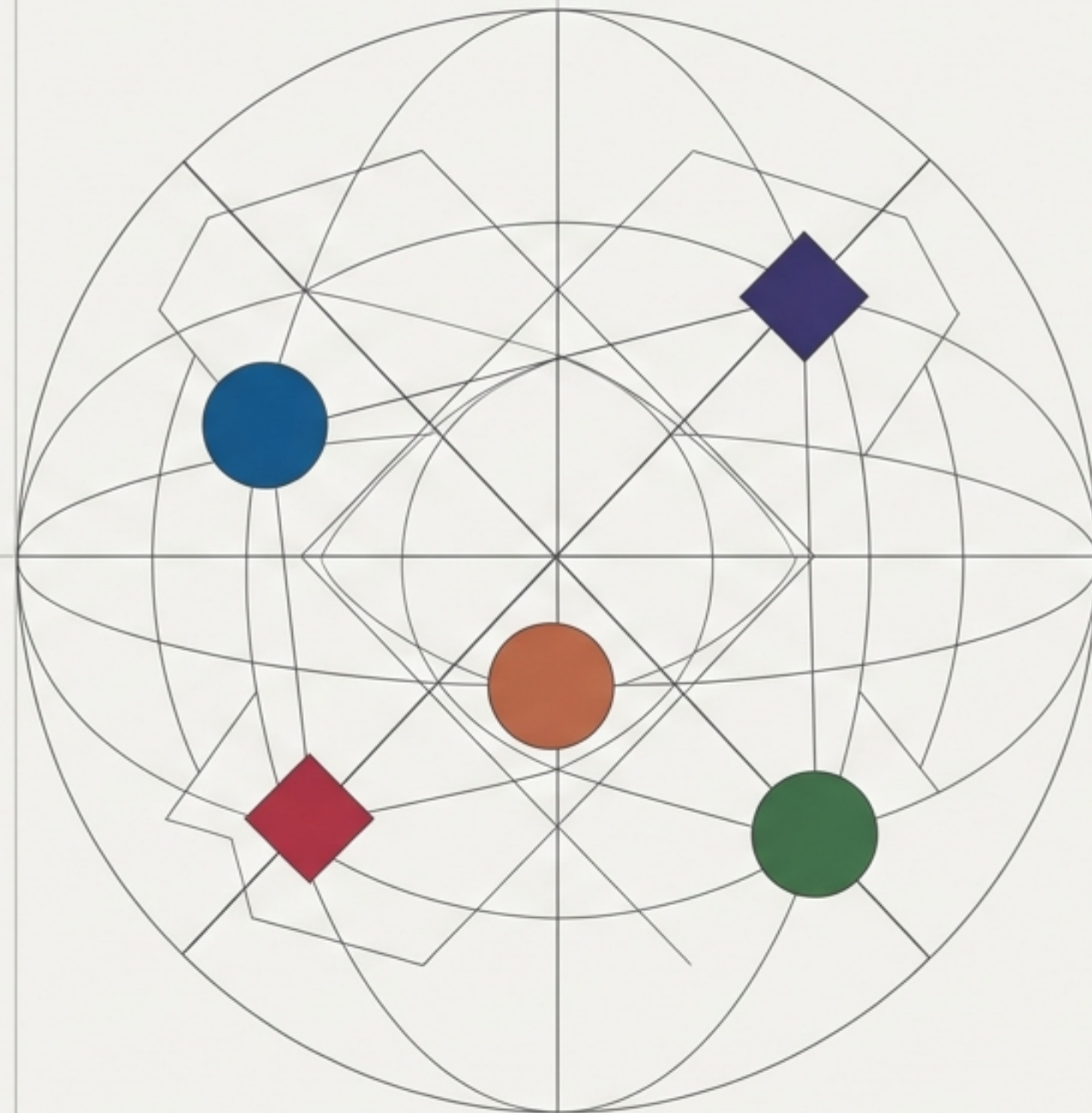


5大特許庁における AI活用の最前線と 未来予測

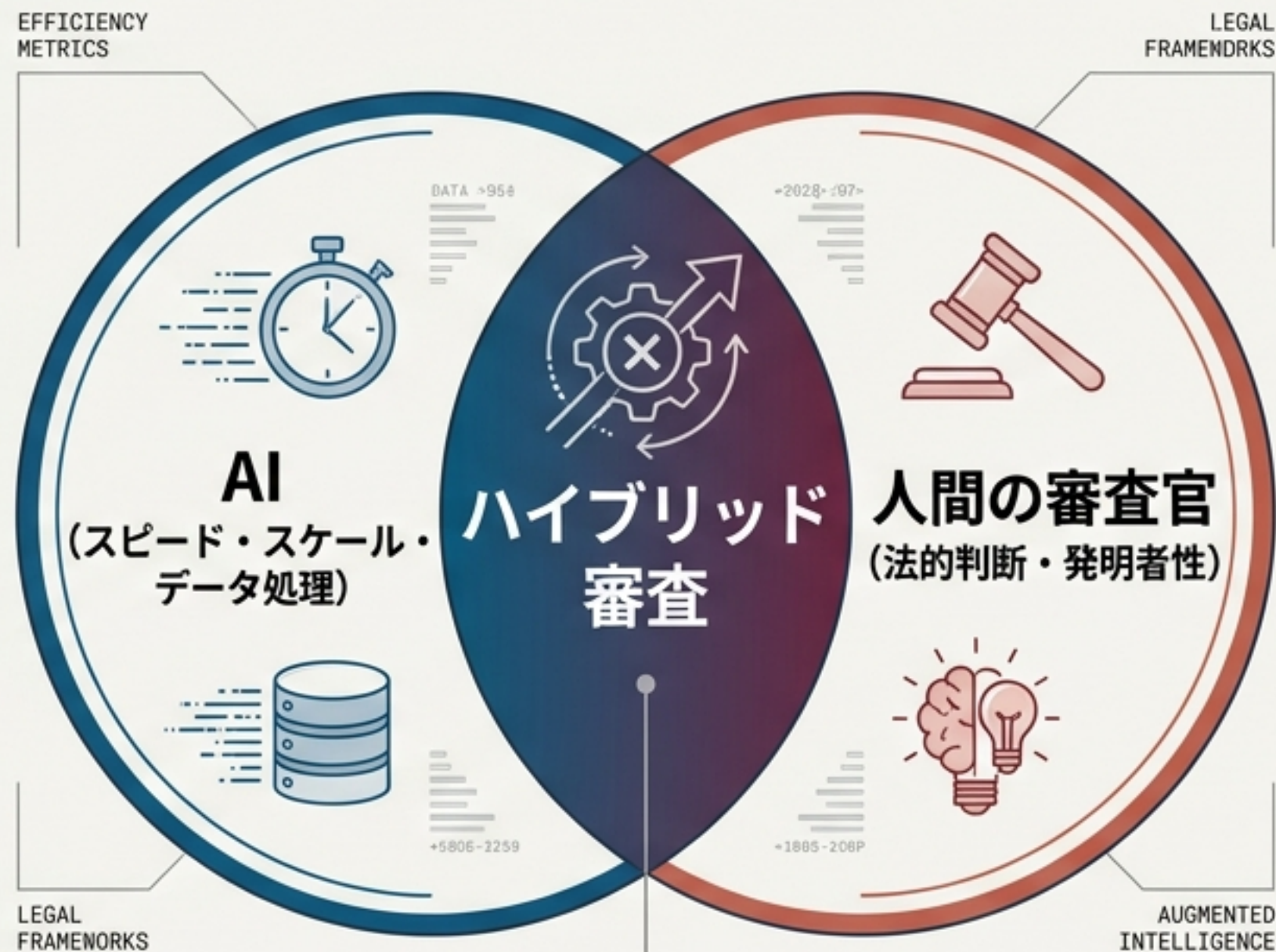
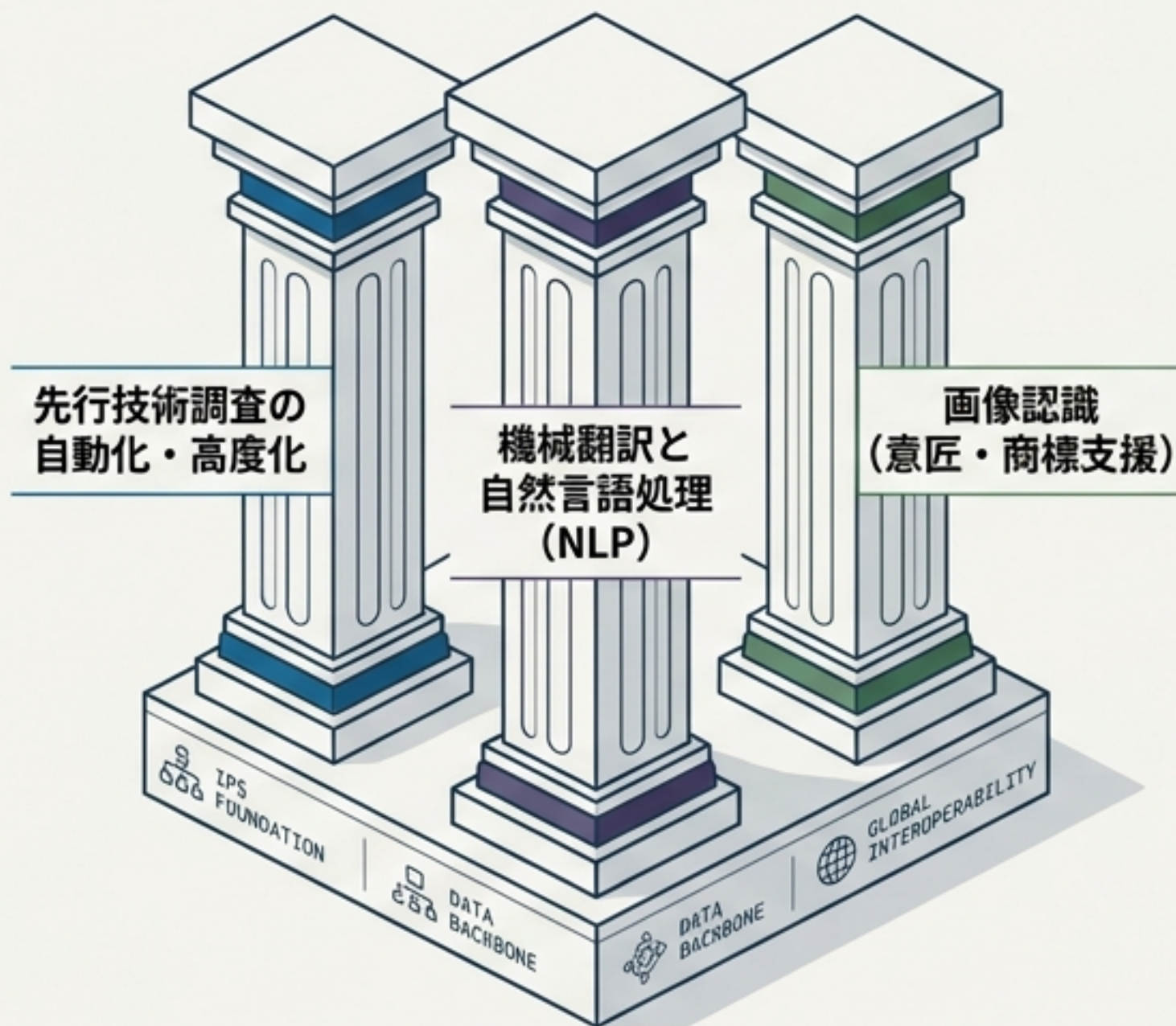
2026年最新動向：ハイブリッド審査への移行と次世代知財戦略

DATE: 2026.06.20 | SOURCE: MANUS AI REPORT | STATUS: VERIFIED



世界的なパラダイムシフト：人間とAIの「ハイブリッド審査」

出願件数の増加と技術の複雑化に対し、
全IP5が共通の基盤技術に注力しています。



AIは「人間の代替」ではなく、「審査官の判断を拡張するツール」として明確に位置づけられています。

IP5 AI戦略マトリックス：各庁のアプローチと独自性

	JPO	USPTO	EPO	CNIPA	KIPO
戦略的アイデンティティ (Strategic Identity)	段階的統合と生成AI実証	フロントエンド (出願人) へのAI AI開放	データ主権と対話型リーガルプラットフォーム	スケールメリットと世界最速化	官民連携ハイパー スケールAI
コアシステム・提携 (Core System/Partner)	Image Search Tool (独自)	ASAP!, DesignVision, Class ACT	Mistral AI, EP-RoBERTa	China Patent Intelligent Examination (i System)	LG AI Research (EXAONE)
生成AIの応用領域 (GenAI Application)	オフィスアクション (拒絶理由通知書) ドラフト作成実証	未分類商標の国際分類・コード割り当て (Class ACT)	会話型法律情報検索チャットボット (LIP)	大規模モデルによるセマンティック理解・通知書生成支援	特許文書の要約・翻訳・分類
出願人への直接的影響 (Direct Applicant Impact)	中 (審査品質・一貫性の向上)	高 (審査開始前のASRN提供により戦略的補正が可能)	高 (MyEPO内でのLIPによる法的検索の効率化)	中 (審査期間の圧倒的短縮: 15.5ヶ月)	中 (ハイテク分野の優先審査: 最短2ヶ月)

日本国特許庁（JP0）： 検索の高度化から「起案」の実証へ

STRATEGY: 体系的進化 (Systematic Evolution) |
FOCUS: 2025改定アクション・プラン

- AIを単なる補助ツールから「制度運営の中核」へ位置づけ変更。
- 2024年4月より、専門知識を持つ「AIアドバイザー」を導入し審査体制を強化。
- 商標審査では形状・テクスチャを分析する画像検索ツール（2023年）が既に稼働中。

Phase 1 (2024)

先行技術調査①
(概念検索・ランキング表示の導入)

Phase 2 (2025)

先行技術調査②
(検索手法のさらなる高度化・アジャイル開発)

Phase 3 (Next)

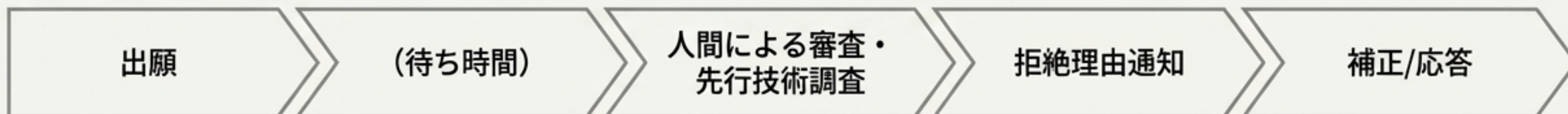
生成AIの特許審査適用
(オフィスアクション/拒絶理由通知書のドラフト作成支援PoCへ移行)

米国特許商標庁（USPTO）：審査前の情報開示による戦略的シフト

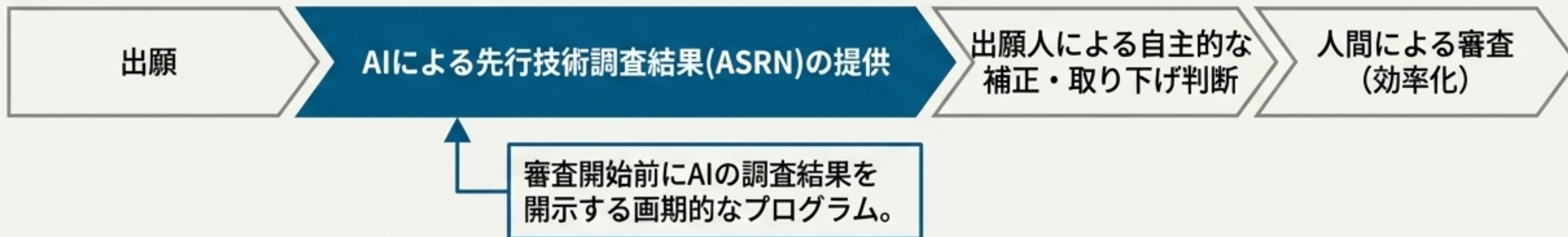
STRATEGY: 出願人重視 (Applicant-Facing Tools) | GUIDANCE: 人間が発明者であること

- 2025年1月の新「AI戦略」に基づき、審査官向けツールと出願人向け機能を並行拡充。
- 商標向け「Class ACT」（2026年3月）により、分類作業を数ヶ月から数分に短縮。
- 全審査官がAI支援ツールを先行技術調査に利用（2025年7月時点）。

[従来型ワークフロー]

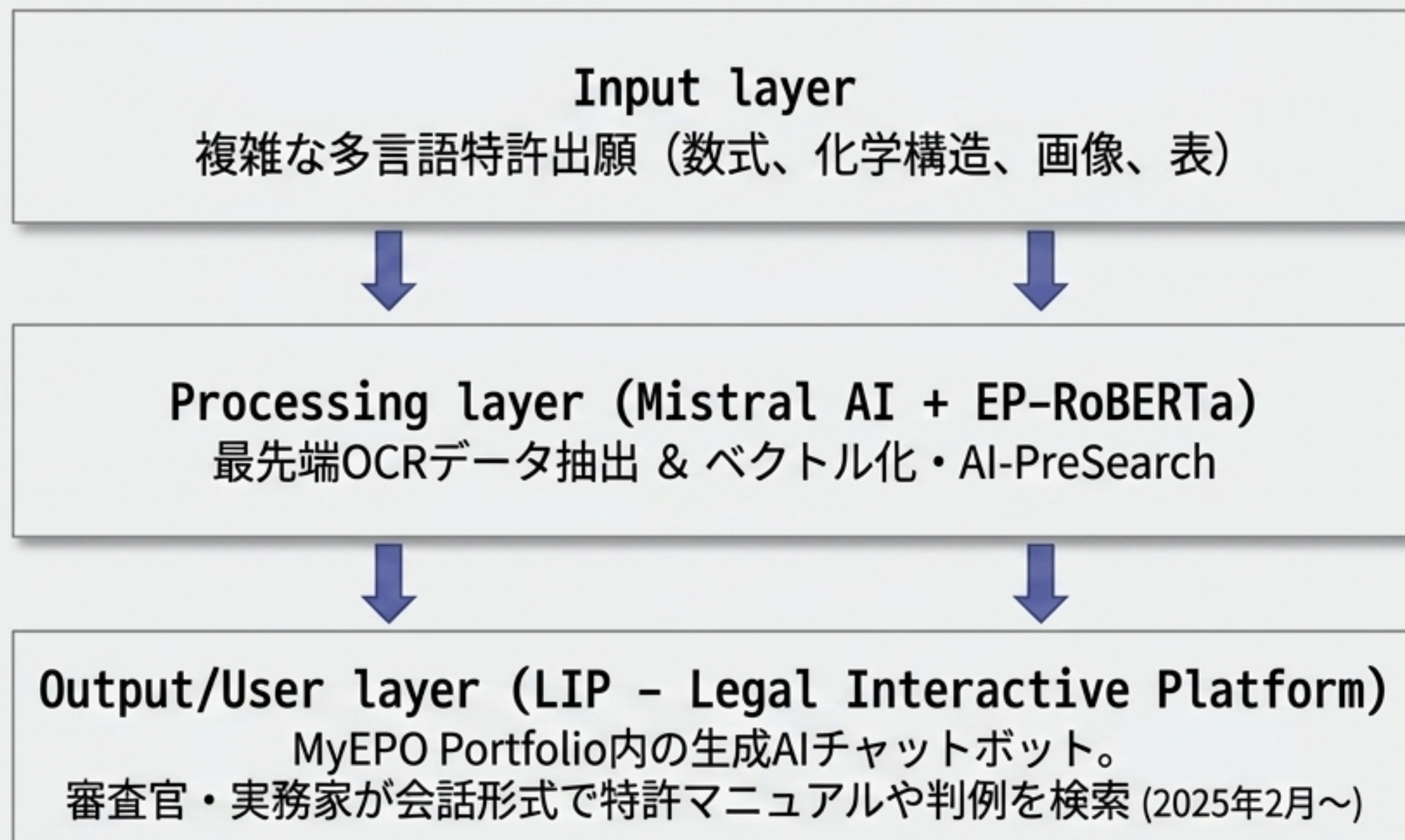


[ASAP! パイロット (2025年10月～)]



欧州特許庁（EPO）：データ主権と 対話型リーガルプラットフォーム

STRATEGY: 欧州主権AI (Sovereign AI & Privacy)
| PARTNER: Mistral AI (2026年3月提携)



戦略計画2028に基づき、データプライバシーと欧州の法的枠組みに完全準拠した独自のAIソリューション開発に注力。

中国国家知識産権局（CNIPA）：統合プラットフォームによる圧倒的スピード

STRATEGY: 大規模統合システム (Scale & Velocity)

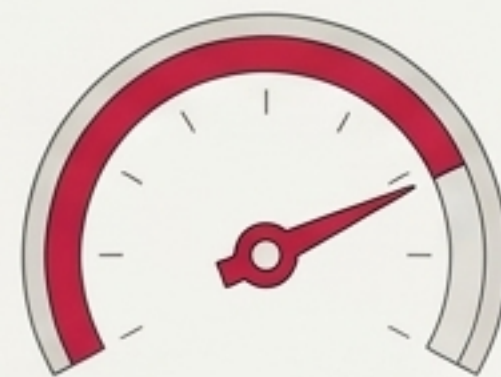
| METRIC: 発明特許審査期間 15.5ヶ月

Input capabilities:
34言語以上の機械翻訳、13の英語/21の非英語全文DB網羅。意匠画像の多視点・影除去・検索。

Core Engine: China Patent Intelligent Examination System (i System) - 特許ライフサイクル全体をカバー



Performance Output 1:
先行技術見逃し率削減
(国内出願 -31.6% / PCT
出願 -25%)

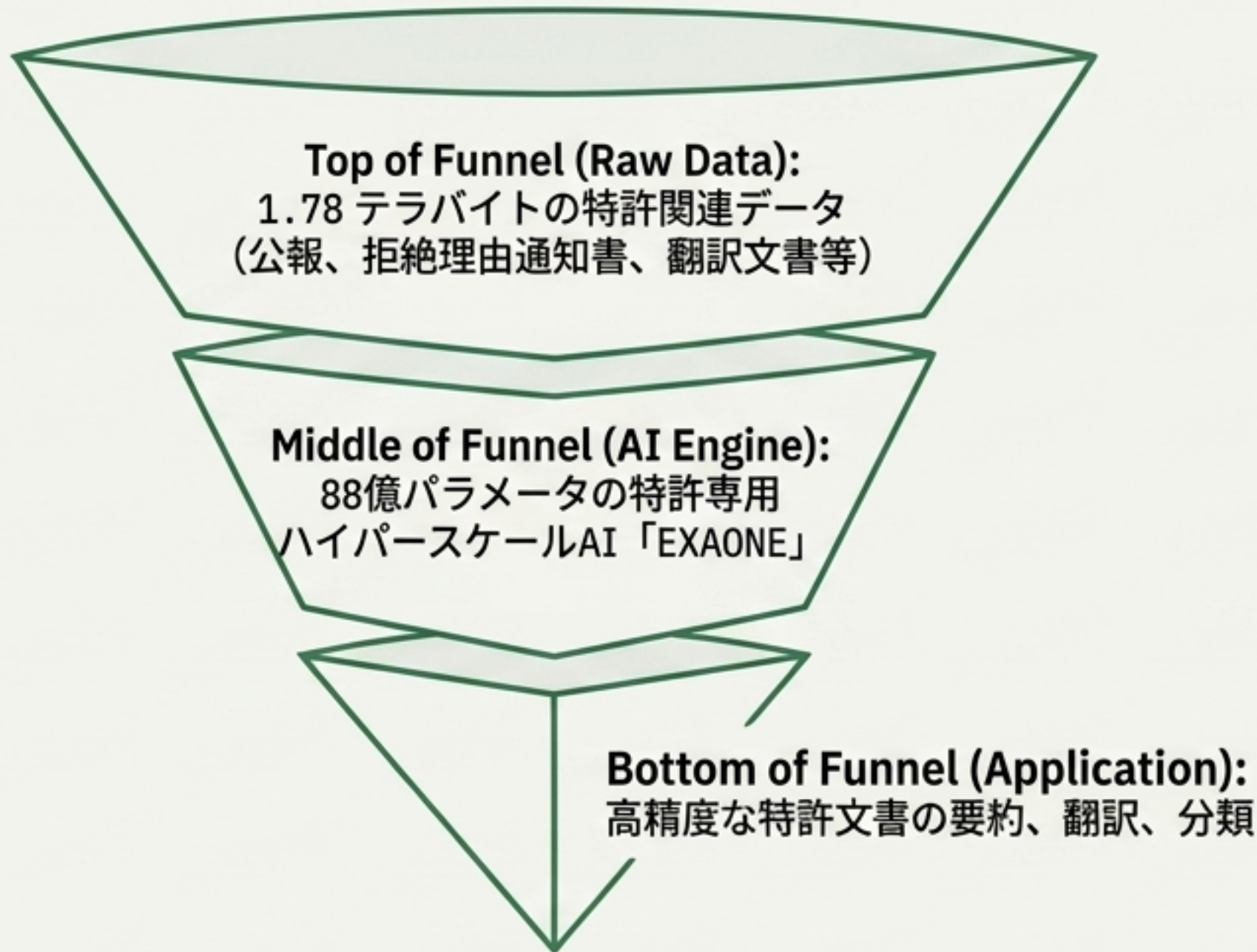


Performance Output 2:
意匠先行技術発見率
90% (上位30件内)

Goal Callout: 2025年末までに平均審査期間を「15ヶ月」へ短縮し、大規模モデルによる通知書の自動生成支援を目指す。

韓国特許庁（KIPO）：官民連携による 特許専用ハイパースケールAI

STRATEGY: 専用LLM開発 (Hyperscale Public-Private) | **PARTNER:** LG AI Research



1. 2025年度予算にてAI学習データ構築に28億ウォンを新規投入。
2. バイオ、AI、先端ロボットなどの新技術分野において、優先審査期間を「最短2ヶ月以内」に短縮する強力な権利化支援。

AI統合のSカーブ：バックエンドから「推論と起案」の領域へ



2026年現在、AIは「実証実験」を終え、特許実務家や出願人の出願戦略に直接的な影響を与えるインフラへと進化しました。次なる焦点は、AIがどこまで「法的推論」をサポートできるかです。